



前を向け。 未来たち。

追いかけて来い。追い抜いて行け。
若い君たちの可能性こそが未来だ。



スポーツくじ



スポーツは育てることができる。



スポーツくじ(toto・BIG)の収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。

www.toto-growing.com ©19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁止されています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

宮崎をナショナルトレーニングセンター(NTC) 競技別強化拠点施設に指定



フェニックス・シーガイア・リゾート及び周辺エリア(宮崎県)が、文部科学省・スポーツ庁から、オリンピック・パラリンピックに向けたトライアスロン競技のナショナルトレーニングセンター(NTC) 競技別強化拠点施設に指定された。今後、施設を活用してトップ競技者の強化やトレーニングをバックアップするほか、医・科学・情報などのサポート環境を整える。指定期間は2018年3月末まで。

1998年から活用

JTUでは、2000年のシドニーオリンピックに向かう最初の合宿を組んだ1998年から宮崎県を拠点にしている。2016年1月にはパラトライアスロン強化合宿をトライアスロンナショナルチーム合宿と同時期に実施。これらの活動が海外にも紹介され、アジア諸国からのキャンプ開催を希望する声も増えている。

年間を通じ 実践練習が可能

特に強調できることは、強化拠点施設のフェニックス・シーガイア・リゾートに隣接するサンビーチーツ葉が、温暖な気候のため冬場でもオー



ブンウオータースイムができること。また有料道路を占有使用したバイク・ラントレーニングなど、年間を通じてレースを想定した実践練習ができるトライアスロンの最適地となっている。

宮崎特産品を使った食事

これらの合宿に参加した選手やコーチ陣からの評価も高く、宮崎産の食材を使ったアスリート向けの食事の提供等、環境・食事両面での総合的なサポートは心強い。地域の歓迎ムードも選手のやる気をかき立てる。

上田藍選手

(バリエ・グリーンタワー・プリチストン・稲毛インター/千葉)

宮崎はとても温暖な気候で、サンビーチーツ葉では冬でもオープンウオータースイムの練習ができます。



さまざまなアップダウンのあるバイクコースを走り、特に法華嶽の上り坂は第31回夏季オリンピック競技大会が開催されるリオ・デ・ジャネイロのバイクコースとほぼ同じ傾斜で、レースに向けて良いイメージトレーニングができます。

ランニングは日ごろから不整地で、階段などのアップダウンを含めたトレーニングを行っているので、私の一番のお気に入りスポットは平和台公園です。宿泊先のフェニックス・シーガイア・リゾートでは、宮崎産の食材



を使ったアスリート食を提供していただき、身体を中からつくり上げることができます。

宮崎は、私の大好きな合宿地の一つに加わりました。

山本良介選手 (JTUアスリート委員長)

(京都府トライアスロン協会/京都)

宮崎には、トライアスロンの大会や、ゴルフ、サーフィンをするために訪れたことはありましたが、トライアスロンの合宿で訪れたのは初めてでした。



スイムはプールでのトレーニングに加えて、気候が温暖なため冬でも海を使ったオープンウオーターでの練習ができる、実践向けの練習環境。バイク、ランはコースレパトリーが豊富な上に、総合運動公園では自転車競技場を利用したバンクトラック練習や、陸上競技場を利用したトラック練習を行うことができます。

食事も宮崎の特産品が豊富でとてもおいしく栄養満点でした。何よりも宿泊施設の方たちの万全のサポートにより、充実した合宿を行うことができた宮崎合宿でした。



富川理充 パラリンピック対策 チームリーダー(神奈川)

タンデムバイクの公道走行が解禁されており、視覚障がいのある選手も身体障がいのある選手とともに実走練習が可能です。宿舎内にはプールやジム、同敷地内にはランニング用の舗装路も整備されており、スイム、バイク、ランの3種類の練習環境が集約されていることもパラアスリートにとっては好都合です。

食事は充実したメニューはもちろんのこと、練習スケジュールによって臨機応変に調整・対応していただけるので、合宿の開催地としてはうってつけの環境です。

いわて国体から トライアスロンが 正式競技に

第71回国民体育大会／2016希望郷いわて国体からトライアスロン

が正式競技として開催される。トライアスロン競技は10月2日(日)に釜石市根浜海岸特設トライアスロン会場で行われる。

釜石市では昨年、リハーサル大会として「第22回釜石はまゆりトライアスロン国際大会」で従来のエイジの部・リレーの部に加えて、国体を見据えて「エリート」部を新設し、スイム1.5km・バイク26km・ラン10kmの縮小コースでレースが行われた。アップダウンがあるテクニカルなバイクとフラットな高速コースのランの特徴あるコースで、今年のレースにも期待がかかる。

国体のトライアスロン競技は来年2017年愛媛大会でプレイベントが検討されているが、2018年福井大会では2回目の正式競技が行われる。

日本ライフセービング協会とパートナーシップ協定の覚書を締結

公益社団法人日本トライアスロン連合(JTU)は特定非営利活動法人日本ライフセービング協会(JLA)と、全国の水辺の環境保全、安全指導、監視・救助等を行うライフセービング及びトライアスロン競技等の健全な普及を促進するために、2016年3月16日(水)、パートナーシップ協定を取り交わした。



[1] 大会・事業の 相互協力関係の促進

JTU及びJLAが関係する大会・事業の相互協力体制を充実させるために、両団体のノウハウを交換し、JTU及

びJLAの全国組織の交流を促進する。

[2] トライアスロン大会の 安全体制の構築

選手・関係者の水辺の安全促進のために、スイムの監視・救助の充実を図り、水難事故を未然に防ぐための知識・技術の普及により、自助・共助力の向上に貢献する。

[3] ライフセーバーの全国的普及

トライアスロン開催地でのライフセーバー養成講習会等の開催及び各地域の組織間の連携とライフセービングが未整備な地域の組織構築を支援する。

[4] 国際的な競技環境の 整備と安全管理の向上

第32回夏季オリンピック競技大会／第16回夏季パラリンピック競技大会(2020/東京)でのトライアスロン及びパラリンピックの実施に向けた環境整備と総合的な安全対策のために、両団体が歩調を合わせて取り組む。

海外競技団体と 提携事業相互

ニュージーランドトライアスロン連盟(2015年2月)及び、香港チャイナトライアスロン連盟(2015年8月)と相互協力の覚書を締結。第32回夏季オリンピック競技大会／第16回夏季パラリンピック競技大会(2020/東京)に向け、コーチング等、ハイパフォーマンスプログラム(エリート強化プログラム)について相互協力を行う。

2015年度には香港チャイナナショナルチーム選手の日本開催の合宿を受け入れたほか、ニュージーランドでの個別強化合宿の合同開催などを行った。今後、メキシコ、ブラジル、イギリス、オーストラリアなど協力関係の深い欧米諸国そしてアジア各国との提携を進める。

トライアスリート 補償制度 「スイム・バイク・ラン 保険」受付開始

トライアスロンを楽しむ愛好者(トライアスリート)向けの補償制度(スイム・バイク・ラン保険、スポーツ安全保健)の提供を開始した。

本制度は、JTUオフィシャルスポンサーである三井住友海上火災保険株式会社と提携して開発したもので、「JTU登録会員」が対象。日々のトライアスロンに必要な3種目(スイム：水泳、バイク：自転車、ラン：ランニング)のケガ・事故などを補償する本制度を通じて、トライアスリートが安心・安全にトライアスロンに取り組める環境整備を目指す。

詳細は下記URLを参照。

<http://www.jtu.or.jp/news/2016/160401-1.html>

JTU会員特典から

JTU会員の方はスポーツクラブNAS(JTU会員特典)、コナミスポー

ツ&ライフ(法人会員契約)の特典が利用できる。詳細は各案内を参照。

スポーツクラブNAS



コナミスポーツ&ライフ



各種情報

JTUホームページでは選手情報、競技規則などさまざまな情報がご覧いただけます。

選手プロフィール

エリート



ロングディスタンス



パラトライアスロン



ジュニア



デュアスロン



競技規則

JTU競技規則(要約)

